

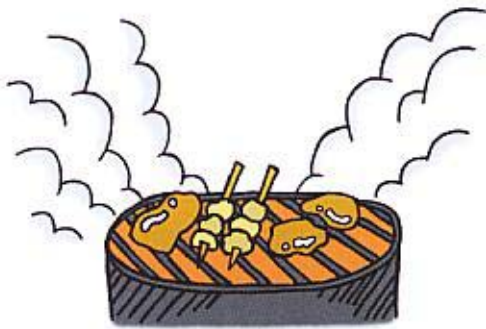


火災でなくても働くことがありますか？

「煙で見つけるタイプ」では、火災の煙に代わり、光を反射する物質が警報器内部へ入ることで火災の警報を発することがまれにあります。

【たとえば】

調理時に発生する大量の煙



調理時に発生する大量の湯気



燻煙式殺虫剤



風呂・シャワーなどから出る湯気



燻煙式殺虫剤を使用する場合、火災警報器が警報を発することがありますので、火災警報器を取り外す、ビニール袋で覆うまたは、ACプラグを抜くなどしてください。

台所などで、火災でないのに火災警報器がひんぱんに働く場合は、湯気や煙の直接かからない場所に取り付け位置を変更してください。